

手記

八月二十一日、炭労は第七次石炭政策の確立をめざす第七次中央行動を実施した。

昨年八月、通産大臣から諮問をうけ、第七次中央行動の立案にあたってきた石炭政策審議会(石炭審)は、その後一年間にわたる検討の末、去月三日の石炭政策、経営・供給価格合同部会などの議論を経て結論を確定、「今後の石炭政策のあり方について」通産大臣に答申した。

一定の前進を見た政策答申

内容は、たとえば「国内炭の位置づけ」をめぐって、これまでの下方修正論を克服、実質的には「二千万トン以上」を含む方向が確立したこと、また「労働力確保」についても、「地下産業にふさわしい」労働条件の確保をめざし、今後労使間で具体的に詰めていく足がかりを築かれたこと——など一定の前進が見られた。

それにもかかわらず、われわれの「重点要求」である、一、国内炭の位置づけと、これにともなう現有炭鉱の保安・生産体制の確立、新鉱開採。
二、格差の是正。
三、炭価決定メカニズムの確立。などの課題については、満足はいく答申にわたってはいず、問題として今後に残された。

中央行動で予算確保めざす

炭労は、右答申後の情勢をふまえ、今後は通産省に対して答申の完全実施をめざす行動を積み重ねていくことにしているが、こんどの中央行動はその一

つとして取り組まれたものだった。

行動には各山より、労働担当などの代表が結集された。

集会の席で、中央行動の取り組みについて、まず炭労中央から三点にわたる問題が提起された。

一、(イ)保安確保に対する取り組みの強化。(ロ)坑内資格構造に対する補助の増額。(ハ)採掘技術についての研究・開発の推進。

明確になった通産省の考え方

さて、三点の要請に対して通産省が明らかにした考え方は、次の通りである。

(1) 今回の石炭政策答申は、将来性のあるものとした。そのために、①保安の確保。②資格坑道の整備。③集中管理体制の強化。④作業環境(高温を含む)の改善をめざす。

(2) 予算は現在作業中で、八月末までは大蔵省に提出予定。(3) 行政改革との関係については、一般会計は厳しいが、特別会計はあまり影響がないだろう。

(4) 格差是正については、①北空知関係。②北空知以外。③海岸炭鉱——の三グループに区分して予算の配分を考えている。とくに北空知関係(砂川、赤平、芦別、空知)に対しては重点配分し、救済策を講ずる。

二、予算確保について。
三、格差是正についての考え方について。

これらの問題提起に対して、各山からは次のような質問・意見が出された。

▼行政改革との関係で、石炭予算が削られるのではないのか。
▼傾斜配分に、炭労として基準をつくったかどうか。
▼今後炭採掘が進むにつれて、条件が悪くなるのに、現在の石

答申の完全実施めざす

今後も、行動の継続を決定

炭労の第七次中央行動報告

労働者に責任はない

監督局に真意ただす

さる六月十一日、三川鉱本層七

十御東五片向坑道での落盤で、吉田哲郎さんをはじめ六名の労働者が死亡するという災害から、やがて三カ月を経過しようとしている。

この災害の原因調査が、福岡鉱山保安監督局で行なわれているが、事情聴取などもほとんどおわり、内容の整理に当たっている段階であるが、二十二日三川鉱の坑外に設けられた模擬坑道で、災害当時の作業を再現して模擬実験が行なわれた。

この模擬実験に関して、一部の新聞報道で、重量物上げによる「たわみ」が引きがねか、と、直接作業員に責任があるかのような、誤解を与える事態もあり、全般的な原因究明の立場から、組合では二十六日、福岡鉱山保安監督局の長田石炭課長に申し入れ書を手渡すとともに、厳しく真意をた

申し入れの項目

一、監督局としての災害にともなう調査の経過と、現状を明らかにされたい。

二、三川鉱における模擬実験を行なうこととなった経過と、実験結果に対する見解を明らかにされたい。

一、模擬実験の新聞報道では、落盤の直接の引き金は、重さ二・九トンの原動機であったとされているが、この内容は現場に働く労働者に責任転嫁するもので、組合として納得しがたいものであり、この問題に対する監督局の見解を明らかにされたい。

二、今後監督局として、調査の推移はどのようになるのか明らかにされたい。

落盤災害

で、おおむね前向きな回答がなされ、あと一カ月位で結論をたすが、一定の時期に組合にも説明したい、などの姿勢が示された。

三井化学、また合理化を

牟工で600人余削減

組合員 そんな勝手は許せぬ

合理化といえは、きまつて人員五百人「赤字を放逐すれば全社削減を第一のねらいにできた三井化学(株)は、従業員七千五百人。きき忍んでもらう」と会社。三井化学(株)が、このほど三井化学(株)・合資(株)・全東(株)の共同組織として、今後それ相応の対応をして合理化に乗り出す計画を発表、一般に驚愕を呼んでいる。

三井化学の組合員は、異口同音に「何かといえは、人員削減。計画によれば、大牟田工業所で千六百人の従業員が削減される。六十四人を減らすという。実施されると、従業員は九百六十人に落ち込む。(全社での人員削減は千

一坑内労働者の手記

「またまたあがりよる(昇坑)が、もうかりよるかい」松原炭夫たちの話である。話はまた続く——「ちっとはゼニになりよるじやろもん」

「この頃急に出来高(採炭)炭など請負給のため、この言葉がある」が、たがったん、仕事は以前と変わらん(つつ、汗じゅくりになつてしよるが、賃金はさっぱり。前々までの賃金カード(その目)の日の出来高を、十日ごとに区分けして、職制から各人に渡される明細)は、平均四千七、八百円だったのが、この頃五、六千円は下がって、人によっては三千円台さへある。半分の収入はいるだらう。かりに春闘でいくら賃金があがっても、毎年毎年新賃金が決まるまで、会社から出来高をおさえこまれてしまふが、何とかならんもんかな。車の月賦は払わんならん。女房は生活に追われてぶつぶついう。これ以上賃金が

なんとかならんか、この低賃金

下がる(春闘で賃金があがったはずなのに)、女房のやつ、子供を置いて炭坑してしまつても知れんか。会社をうらむわ」炭坑の低賃金に悩まされ、一般に、今頃は生活水準が上がっている。仕事は何であれ、常一(層間)だけの勤務のこと)の賃金ではなかなか、暮らしてやういけんのが実情だ。

「石炭見直しは、まず労働者の賃金見直しをこそ最優先にすべきだ」と、強い意志を語っているが、また、こんな苦しい低賃金生活にいつまでも耐えていけ、ということ、誰からも教えられてはいない。

題は「炭坑」とありましたが、勝手ながら上の見出しに変えていただきました。悪しからず。

「(8歳)、長男の嗣君(5歳)です。それに母親のシズカさん(67歳)の五人家族です。子供さん達がひとり前になるまでは大変だと思いますが、この間、人を、職場の皆さんに頼れども引き続き合理化、反介ください。お願いします。編集部

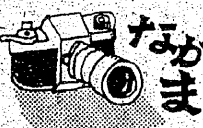
高木さんの住所は、「荒尾で、お尻市新町2320-19」5人家族でがんばられます。



高木さんの住所は、「荒尾で、お尻市新町2320-19」5人家族でがんばられます。



上の写真は、このほど坑外で行われた模擬坑道を使つての模擬実験だが……。そのねらいは?



高木哲雄さん

七分会(四山) 高木哲雄さん。高木さん、地域分会でもまた、分会長などの役を何期も重ねていらした。職場や地域ではよくみんなの意見を聞かれ、仲間たちの信頼を集めておられます。趣味はたぐさ。でも何となく、眼裏が第一で、現に三井化学の層間クラブの会長であり、腕前はどうかといえは、さすがに会長の名にふさわしく四段です。

▼このような条件の中で、職場では何年も代議員を続け(39歳)に、長女の和子さん